

手指消毒行動を後押しする 手指消毒マークの効果 —ナツジを活用して—

湖東厚生病院 感染リンクナース委員会
嵯峨 藍 土橋 優子



I. はじめに

感染リンクナース委員と感染対策チーム（ICT）が中心となり、手指消毒使用量のフィードバックや研修会等を実施



手指消毒薬使用量15ml/患者/日に到達していない



「ナッジ」に着目し、手指消毒マークを活用

Ⅱ. 目的

手指消毒マークを活用し、手指消毒薬使用量と手指消毒行動の効果を検証する。

Ⅲ. 用語の定義

1. 手指消毒マーク

行動経済学のナッジを活用し、「手指衛生の5つのタイミング」に沿い、高頻度接触面に貼る手指消毒のイラストマークをいう。



IV. 研究方法

1. 対象

A病院 病棟看護師45名

2. 期間

令和4年8月～令和5年1月



3. 方法

- 1) シミュレーション研修後よりマークの活用開始。マークは、直径6cmの手指消毒をイメージするイラストで、A病院で独自に作成。



3. 方法

【アンケート内容】 手指消毒実施状況

5段階評価

- ・ 必ず実施
- ・ 大体実施
- ・ 時々実施
- ・ ほとんど実施していない
- ・ 全く実施していない

手指衛生の5つのタイミング

- 1 患者に触れる前
- 2 清潔・無菌操作の手前
- 3 体液に曝露された可能性のある場合
- 4 患者に触れた後
- 5 患者周辺の物品に触れた後



3. 方法

3) データ分析方法

①手指衛生に関するアンケート

アンケートを回収し、結果を質問項目毎に単純集計

②手指消毒薬使用量

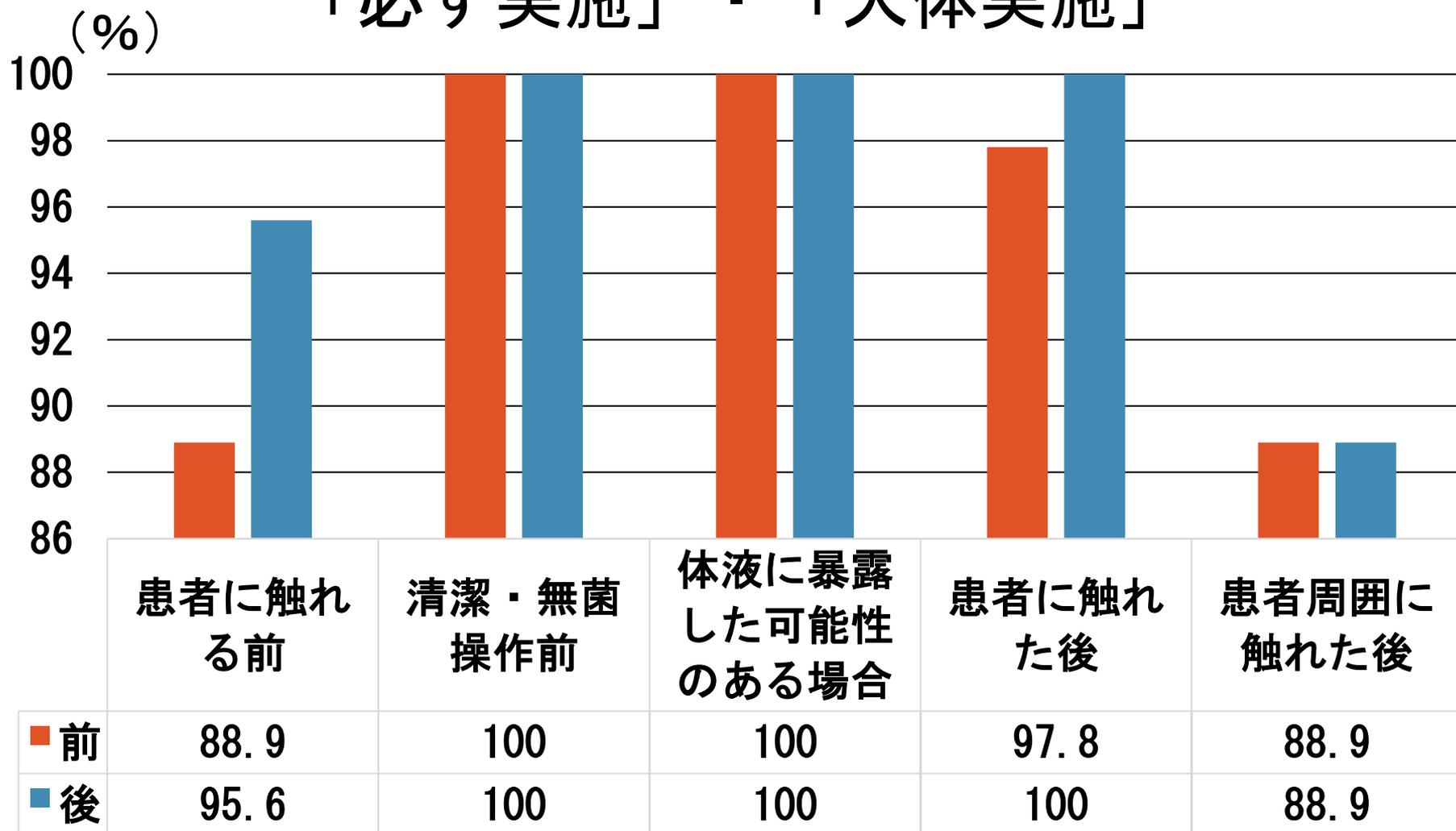
毎月の手指消毒使用量を病棟毎に集計し、量的評価

4. 倫理的配慮

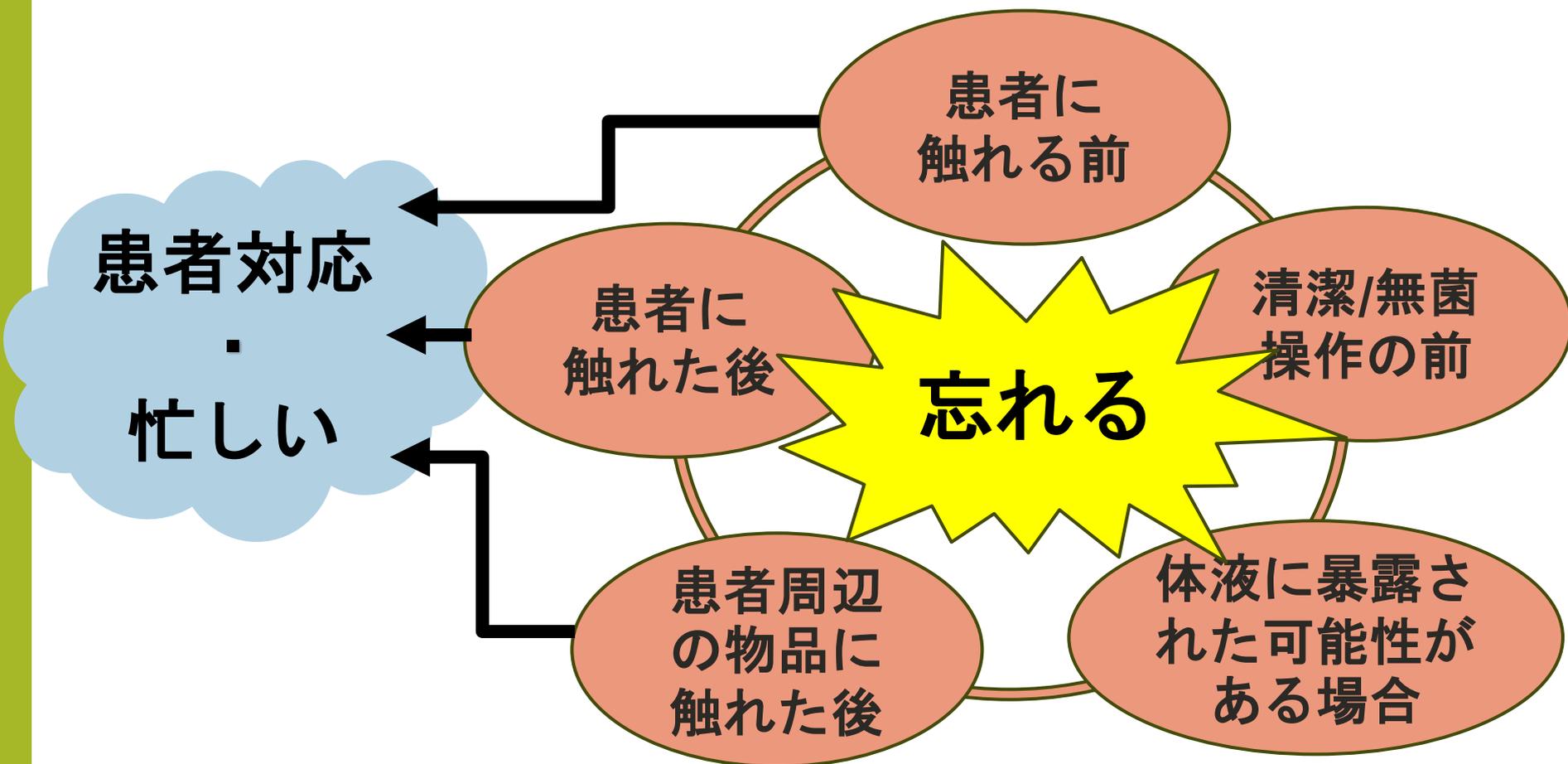
A病院の倫理委員会の承認を受け、研究対象者へ研究目的・方法を文書で説明し、自由意志の尊重、不利益からの保護を明記し、アンケートの回答をもって同意とした。

V. 結果

「必ず実施」 ・ 「大体実施」



V. 結果



V. 結果

そこまで
考えてい
なかった

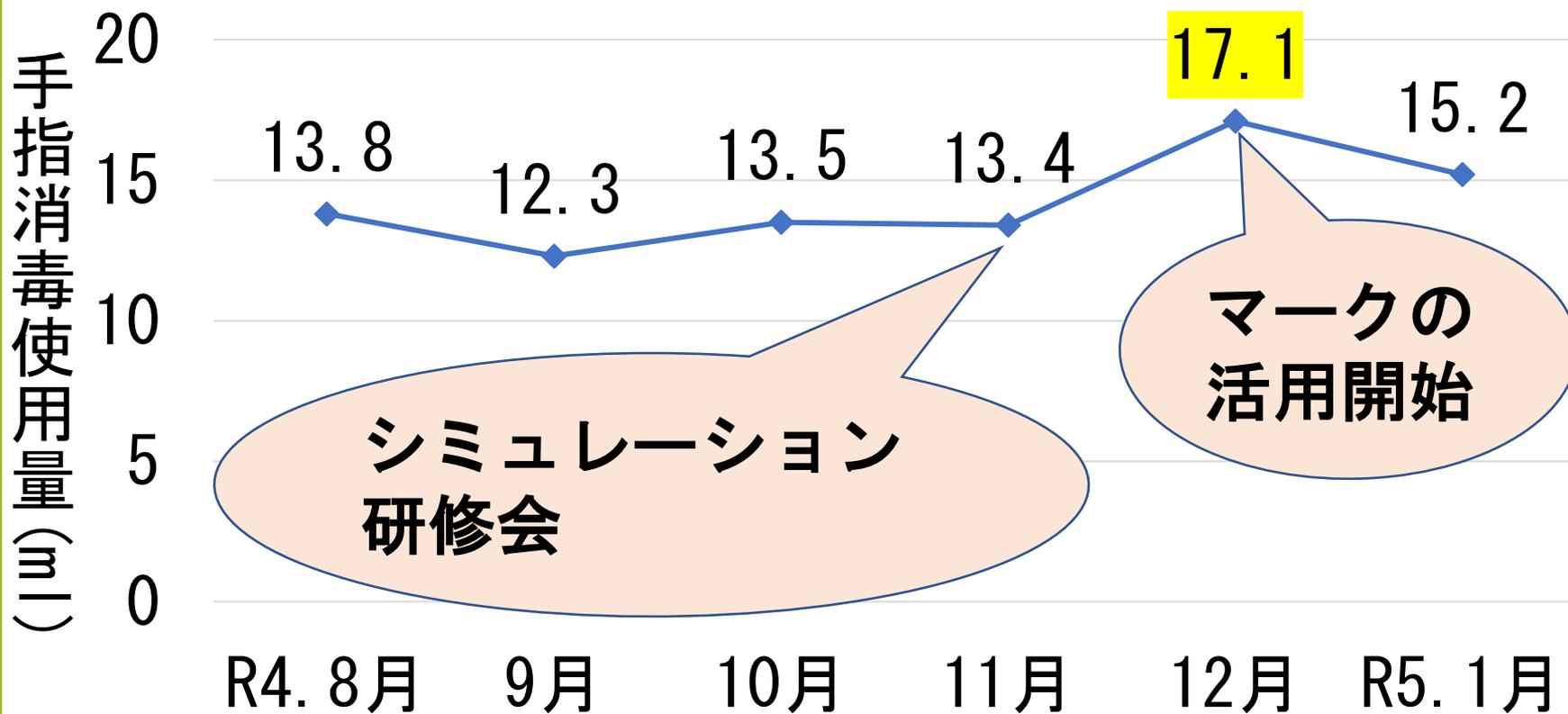


汚れがあまりついでいない気がする

物品を介して
の感染リスク
重要視できて
いない

V. 結果

手指消毒薬使用量推移



VI. 考察

手指消毒薬使用量

目標値 15ml/患者/日を継続して達成

高頻度接触面に手指消毒マークを表示



手指消毒に対する意識の向上
手指消毒薬使用量の増加

VI. 考察

簡単でわかりやすい**ナッジ**の活用

短期間で目標達成

ハッと
気づか
される



意識付け
となった

気づきが
増えた

かわいい

VII. 結論

ナッジを活用し、高頻度接触面に手指消毒マークを表示したことで意識が高まり、手指消毒薬使用量の増加に繋がった。